

## ひらかた万博の総括と今後の取組について

### 1. 政策等の背景・目的及び効果

大阪・関西万博を契機として、地域経済の活性化を図るとともに、市民のまちへの愛着を高めることを目的とした本市独自の取組「ひらかた万博」について、これまでの取組に対する総括を行いましたので、その内容と今後の取組の方向性を報告するものです。

特に、本取組を通じて高まった「共創」の機運については、それを一過性のものとせず、引き続き、多様な主体との対話やつながりを大切にするとともに、持続可能で新しい価値を創造する魅力あるまちへと進化させていくため、既存の「枚方市公民連携プラットフォーム」と「ひらかた万博共創プラットフォーム」（以下「ひらかた万博共創PF」という。）を融合させた枠組みとして、新たに「共創推進プラットフォーム」を構築していきます。

※ ひらかた万博の背景等については、10ページ以降に掲載する資料「ひらかた万博の総括」内の3～4ページを参照



## 2. 内容

### 2-1 ひらかた万博の総括について

#### (1) これまでの主な取組等

「ひらかた万博」では、多様な主体による「共創」を原動力に、地域資源の掘り起こし・磨き上げや新たな魅力創出に取り組みました。

令和4年度	5年度	6年度	7年度
<ul style="list-style-type: none"><li>・ キャッチコピーを決定（7月）</li><li>・ ひらかた万博共創PFを設置（9月）</li><li>・ ひらかた万博推進基金を創設（9月）</li><li>・ ひらかた万博パビリオン事業の実施（10月）</li><li>・ 府内初の空飛ぶクルマ試験飛行（3月）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ ロゴマークを制作（6月）</li><li>・ 枚方市空飛ぶクルマビジネス共創部会を設置（6月）</li><li>・ ひらかた万博共創事業創出補助金の創設（12月）</li><li>・ 大阪府の「空の移動革命社会実装大阪ラウンドテーブル」に参画（12月）</li><li>・ ひらかた万博PRイベント開催（3月）</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 穂谷地区の古民家を活用した飲食店開業（4月）</li><li>・ 公式Instagram開設（8月）</li><li>・ PRイベント「きてね、枚方。」開催（10月）</li><li>・ 海外各国と市内企業や大学等とのビジネスマッチング（11月～）</li><li>・ ツアーの造成</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 大阪・関西万博への出展（5～9月）</li><li>・ 集大成イベント「またきてね、枚方。」開催（10月）</li><li>・ TEAM EXPO 2025 共創パートナー賞受賞（10月）</li><li>・ 取組の総括（10月～）</li><li>・ 奥ひらツーリズム実施（11～12月）</li></ul>

※ 具体的な取組の事例など取組実績や市民・関係者など各種アンケートの結果については、10ページ以降に掲載する資料「ひらかた万博の総括」内の6～29ページを参照

## (2) 取組の評価と今後の方向性

### ① 地域経済の活性化について

多様な主体の共創により地域資源を活かしたコンテンツが創出され、ひらかた万博共創P Fに参画した団体からは「新たなビジネスチャンスにつながった」等、取組の成果を実感する声がありました。取組を通じて生まれた特産品や掘り起こされた地域資源については、引き続き主体的に関わり、さらなる磨き上げや新たな取組への発展につなげていきます。

また、万博を契機に交流を深めた海外各国とは、今後も引き続き市内企業や大学等とのマッチングにより、海外展開など具体的な事業連携を目指していきます。



### ② まちへの愛着醸成について

ひらかた万博を契機に、大学や高校等のPBLや事業者による地域資源を利用した取組等、多様な主体が地域に改めて目を向け、様々な活動を通じてまちの魅力を再認識する取組が活発化し、愛着向上につながりました。

今後も、多様なパートナーシップによる主体的な活動を支援することにより、さらなる愛着の向上につなげていきます。



### ③大阪・関西万博の機運醸成について

大阪・関西万博では、子どもたちに多様な学びの機会を提供したほか、大阪・関西万博に係る地域の主体的な活動をパートナーとして支援し、日本国際博覧会協会から「共創パートナー賞」を、自治体として唯一受賞するなど、地域一丸となって万博を契機とした取組を進めてきたことを評価いただきました。

大阪・関西万博を機に生まれた多様な主体とのパートナーシップについては、万博後のレガシーとして継続・発展させ、まちづくりへの参画の推進を図ります。



## 2-2 共創推進プラットフォームの構築について

### (1) 本市における「共創」とは

ひらかた万博の取組を進める原動力であった「共創」は、多様な主体による対話の中のアイデアなど対話そのものが共創であり、対話の結果、様々な取組の推進や創出にもつながりました。

今後も単独の主体では解決が難しい地域課題解決や市民のQOL\*向上に向けて、行政・企業・地域団体・学校等がそれぞれの立場や強みを活かしながら、対話や試行を重ね、解決の方向性や実現可能性など、次の行動につながる可能性を生み出していきます。

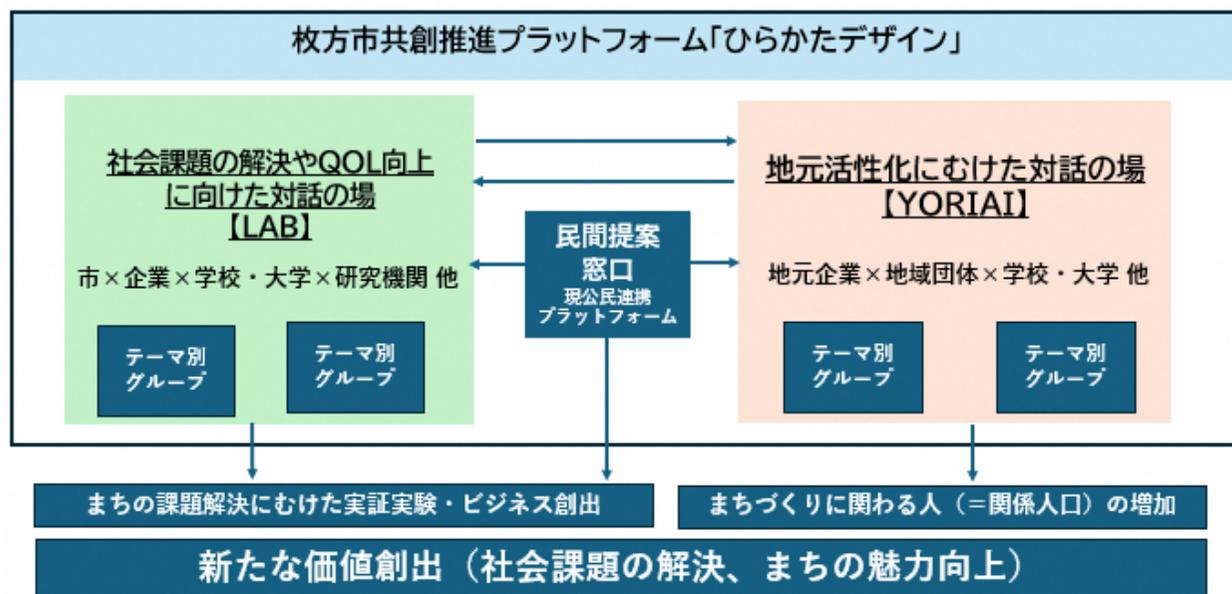
\* Quality of Life … 生活の質

## (2) プラットフォームの概要

今後は、行政が抱える具体的な課題解決等に向けて連携してきた「枚方市公民連携プラットフォーム」（以下、「公民連携PF」という。）の機能と、主に地元企業や団体等による主体的な共創を促進する「ひらかた万博共創PF」の機能を融合した新たな共創推進プラットフォーム『ひらかたデザイン』を構築します（下イメージ図参照）。

『ひらかたデザイン』では、既存の公民連携PFの機能を担う「民間提案窓口」と、民間企業の技術やノウハウを生かした社会課題の解決や市民のQOL向上に向けた対話の場【LAB（ラボ）】、地元活性化に向けた対話の場【YORIAI（ヨリアイ）】を設けます。

### ① イメージ図



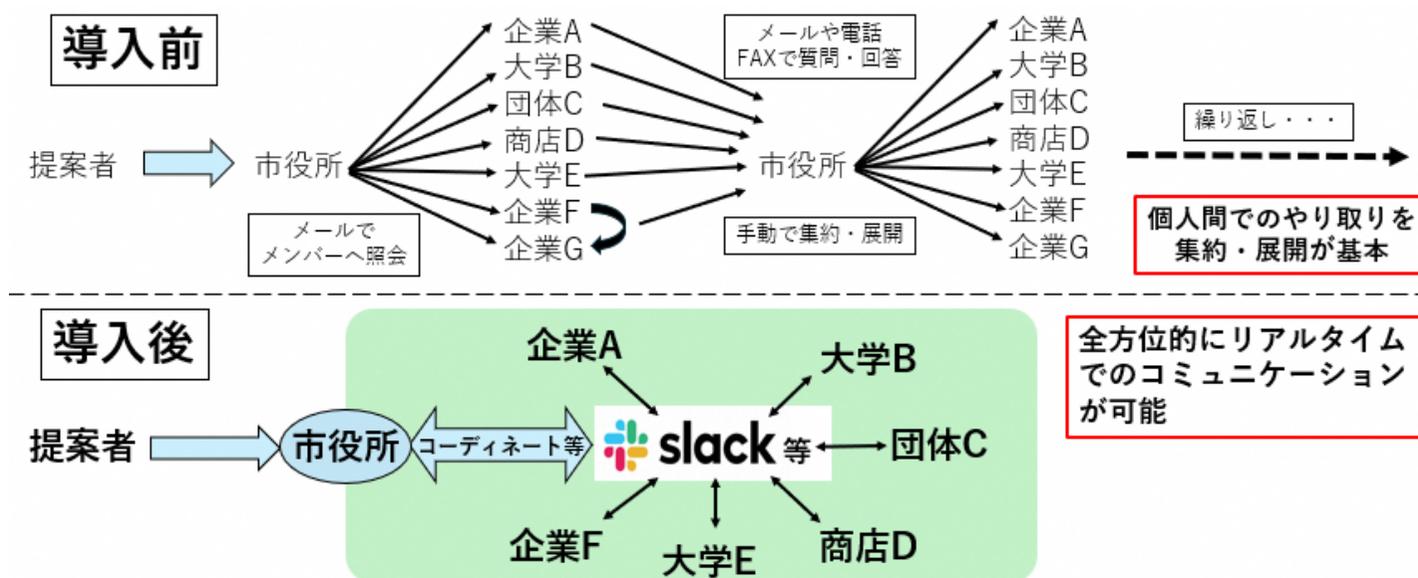
## ②各プラットフォームの比較

名称	公民連携 P F	ひらかた万博共創 P F	共創推進 P F 『ひらかたデザイン』
目的	社会課題の解決	<ul style="list-style-type: none"> <li>・万博を契機とした地域経済の活性化</li> <li>・まちへの愛着向上</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地元活性化や社会課題解決の方向性や実行可能性の検討</li> <li>・まちへの愛着向上</li> <li>・まちづくりに関わる人（関係人口）の増加</li> </ul>
主な活用資源	<p>【民間】技術・ノウハウ・アイデア等</p> <p>【市】フィールド提供、広報媒体等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の地域資源</li> <li>・多様な主体とのつながりや関係性</li> <li>・対話で生まれるアイデア等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本市の地域資源</li> <li>・多様な主体が保有する資源（技術・ノウハウ・アイデア等）</li> <li>・多様な主体とのつながりや関係性</li> </ul>
活動主体	市×民間企業等	市×学校×各種団体×地元企業等	市×学校×各種団体×民間企業等（地元企業含む）
対話イメージ	1対1の対話になることが多い	複数の主体により対話を重ねる	【民間提案窓口】主に1体1対話 【LAB・YORIAI】複数対話
対話後の取組	課題解決に向けた市民ニーズ分析や実証実験等の実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各主体による自発的な活動</li> </ul>	公民連携 P F の取組＋ひらかた万博共創 P F の取組
事務局（政策推進課）の役割	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各部署と民間企業等とのマッチング</li> <li>・連携事業に関わる対話の支援等（課題調整）</li> <li>・各部署からの課題や取組実績の公表等</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対話に参画</li> <li>・参画団体の取組を情報発信（SNS等）</li> <li>・対面による交流会の実施（年1～2回程度）</li> <li>・関連情報の提供</li> <li>・事務局として民・民による対話や連携の機会創出等（対話等促進）</li> </ul>	公民連携 P F の役割＋ひらかた万博共創 P F の役割

### (3) デジタルコミュニケーションツールによる対話の促進

「ひらかた万博共創PF」では多くの企業・団体における個々の活動を横断的に把握することが困難で、市が積極的に関与しにくいという課題がありました。

『ひらかたデザイン』では、民間企業等が多く採用するSlack等を導入し、各プロジェクトの動向を市や事業者間で可視化することで、対話の活発化や市のコーディネート機能の強化、新たな主体の参入促進を図ります。



項目	導入前の課題	ツール導入による改善点
コミュニケーション	メール依存で返信遅延、情報が個別に分散し検索や整理が困難	時間と場所を問わないチャットで迅速かつ円滑な意思疎通が可能
プロジェクト管理	団体間の情報共有、進捗状況の細やかな把握が困難	チャンネルやスレッドにより情報が体系化され管理と把握が容易に
参加者管理	参加メンバーの関り度合いがみえず、継続的な接点を持ちにくい。	参加メンバーを一元管理で履歴参照や積極的な関与の呼び掛けも。
会議・調整	遠方の企業は積極的な参加がしづらい。対面のみでは頻度に限界。	オンラインと対面の使い分けで団体間のつながりが密接に。

#### (4) 共創活動の可視化によるシティプロモーション

新プラットフォームでの共創の取組や関係性、生み出された成果については、「まちの魅力」としてSNSを積極的に活用し情報発信し、当事者意識の醸成や活動の裾野拡大、新たなまちづくりへの参画者（＝関係人口）獲得につなげていきます。

### 3. 実施時期等

令和8年（2026年）4月～	新プラットフォームの運用開始
7月～	Slack等の運用開始

### 4. 総合計画等における根拠・位置付け

総合計画 計画の推進に向けた基盤づくり

計画推進1 市民との情報の共有化を進めます



## 5. 事業費・財源及びコスト

《事業費》 6,075千円（令和8年度（2026年度）当初予算に計上予定）

支出内訳

報償費 2,350千円、特別旅費 240千円、委託料 3,485千円

《財 源》 一般財源

# ひらかた万博の総括



令和8年2月 政策推進課

# 掲載内容

◆ ひらかた万博の背景	3
◆ ひらかた万博とは	4
◆ 各年度の主な取組等	5
◆ 具体的な取組状況等	6～31
ひらかた万博共創プラットフォーム	
ひらかた万博共創事業創出補助金	
ひらかた万博パビリオン事業	
くらわんかツーリズム	
ひらかた万博PRイベント	
大阪・関西万博への出展	
万博を契機とした海外との交流	
取組に係る情報発信	
◆ 取組の総合的な評価	32～39
◆ 取組にかかる指標と実績	40～43

# ひらかた万博の背景

令和2年（2020年）12月、来場者数は約 2,820 万人、そのうち海外からの来場者は約 350 万人と想定された令和7年（2025年）大阪・関西万博の基本計画が公表された。

また、近畿経済産業局においては、2019年度以降「万博活用戦略」に基づき、「拡張万博」という概念のもと、万博開催の効果拡大を図っていた。

## 2025年大阪・関西万博



テーマ	いのち輝く未来社会のデザイン
サブテーマ	いのちを救う いのちに力を与える いのちをつなぐ
コンセプト	未来社会の実験場
開催期間	2025年4月13日（日）～10月13日（月） ※184日間



提供：2025年日本国際博覧会協会

## ～ 拡張万博 ～

大阪・関西万博を単なるイベントにとどめず（1）空間的拡張（2）時間的拡張（3）テーマの拡張の3つの視点で開催効果の拡大を図るという近畿経済産業局が提唱した万博活用戦略。

- （1）空間的拡張 関西全体をパビリオンに見立て、万博と連携した活動を関西一円で展開する。
- （2）時間的拡張 万博会期中だけでなくその前後も続くような活動を推進する。
- （3）テーマの拡張 「いのち輝く未来社会」や「SDGs」といった万博のテーマやコンセプトを様々な自身の活動として表現する。

# ひらかた万博とは

令和7年（2025年）の大阪・関西万博を契機に、市民、市民団体、企業、大学等、多様な主体とのパートナーシップでまちの魅力向上につながるイベント・事業等を展開し、国内外から本市への誘客を図るとともに、公民・民民共創による新たなビジネス創出等を行い、地域経済活性化等を図る取り組み。枚方市の地域資源を活用した事業・イベント等を創出し、“枚方市全体が、まるごとパビリオン”となる状態を目指した。



## ◆ひらかた万博の目的

### ①地域経済活性化

地域資源を活用した特産品や体験型コンテンツなどの新たな価値の創出やPRにより、本市への誘客を図る。

### ②まちへの愛着向上

対話や共創の取組により主体的にまちづくりに関わることで、まちの魅力を再確認するなど、まちへの愛着向上につなげる。

### ③大阪・関西万博の機運醸成

# 各年度の主な取組等

## 令和4年度 (2022)

- ・キャッチコピーを決定（7月）
- ・ひらかた万博共創プラットフォームを設置（9月）
- ・ひらかた万博推進基金を創設（9月）
- ・ひらかた万博パビリオン事業の開始（10月）
- ・府内初の空飛ぶクルマ試験飛行（3月）

## 令和5年度 (2023)

- ・ロゴマークを制作（6月）
- ・空飛ぶクルマビジネス共創部会設置（6月）
- ・ひらかた万博共創事業創出補助制度の創設（12月）
- ・大阪府の「空の移動革命社会実装大阪ラウンドテーブル」に参画（12月）
- ・ひらかた万博PRイベント開催（3月）

## 令和6年度 (2024)

- ・穂谷地区の古民家を活用した飲食店開業（4月）
- ・公式Instagram開設（8月）
- ・PRイベント「きてね、枚方。」開催（10月）
- ・海外各国と市内企業や大学等とのビジネスマッチング（11月～）
- ・ツアーの造成

## 令和7年度 (2025)

- ・大阪・関西万博への出展（5～9月）
- ・集大成イベント「またきてね、枚方。」開催（10月）
- ・TEAM EXPO 2025 共創パートナー賞受賞（10月）
- ・取組の総括（10月～）
- ・奥ひらツーリズム実施（11～12月）

# ひらかた万博共創プラットフォーム

- ・本市及び民間企業・大学・団体等の多様な主体による対話の場。令和7年12月末時点で約180の団体が登録。
- ・対面による会議を10回(予定)開催した他、無料コミュニケーションツールを活用したオンラインでの対話を実施。



	R4	R5	R6	R7
登録団体数	61	137	173	178
対面での会議開催回数	3	3	2	2 (予定)

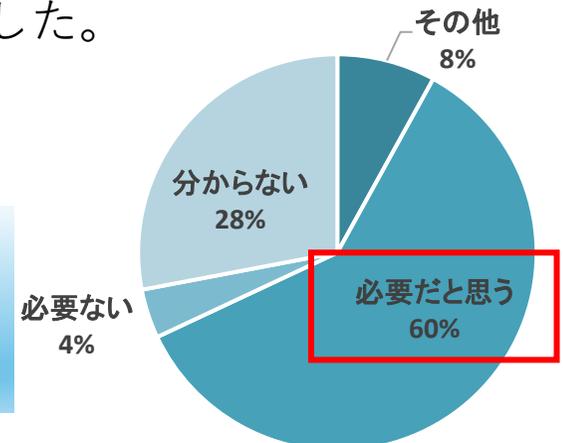
・同プラットフォームを通じネットワーキングの場を設けられたことで、枚方産の食材を使った特産品の創出や盆踊りのイラスト・アニメ制作など、多くの共創事例が生まれた。



- ・民×民だけでなく、ひらかた万博応援自動販売機の設置など行×民での共創も実現した。(9ページ参照)

## 共創の取組における行政の支援・調整等

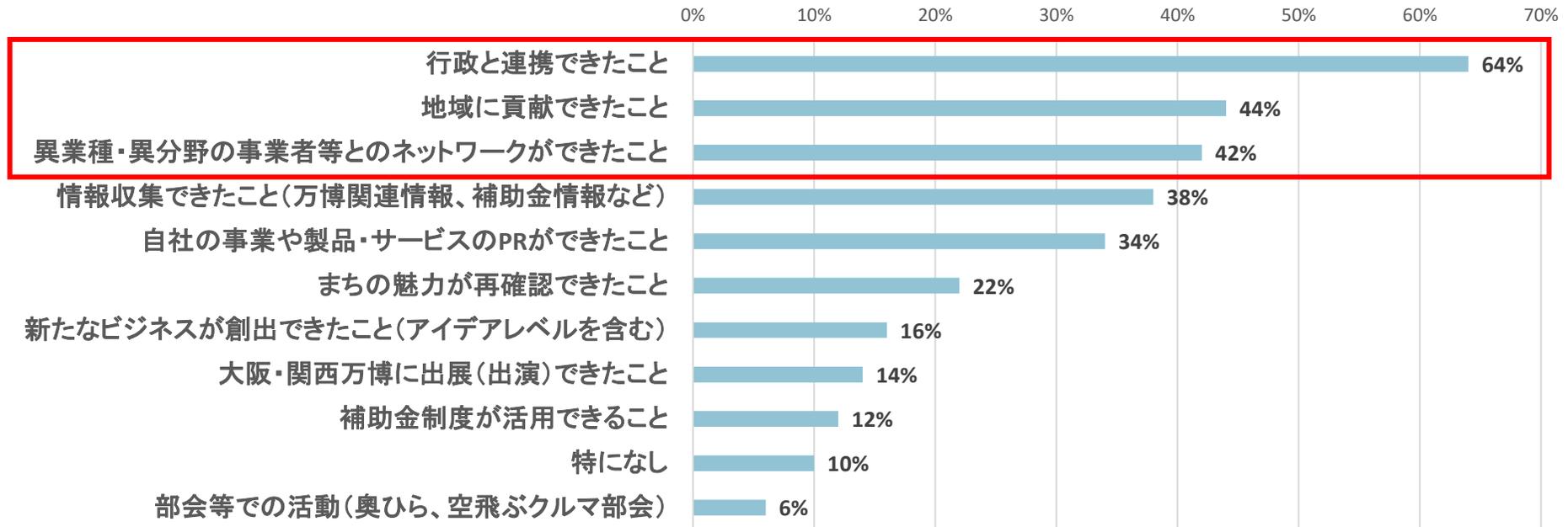
- ①必要だと思う(60%)
- ②分からない(28%)
- ③その他(8%)



ひらかた万博共創プラットフォーム登録団体向け「ひらかた万博の総括に関するアンケート」より

# ひらかた万博共創プラットフォームに参画して良かったと感じる点

※回答数：50



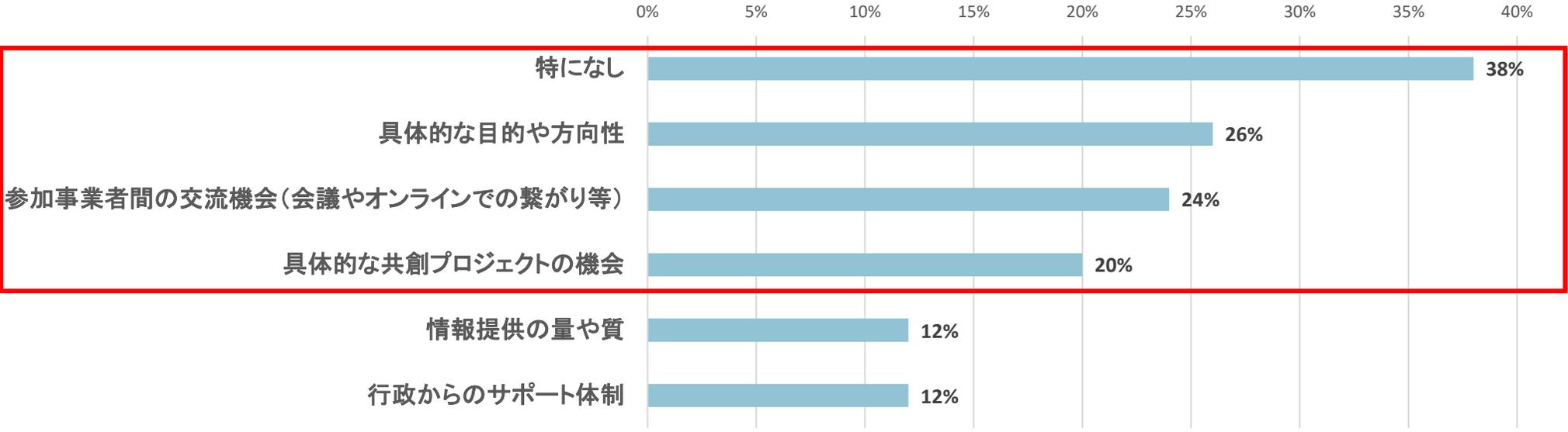
ひらかた万博共創プラットフォーム登録団体向け「ひらかた万博の総括に関するアンケート」より

・プラットフォームに参画して良かった点としては、「行政と連携できたこと」と回答する団体が32件と最も高く、次いで「地域に貢献できた」が22件、「異業種・異分野の事業者とのネットワークが構築できたこと」が21件と、多様な主体との対話や連携のきっかけになったことや地域貢献できたことを良かったと感じる団体が多いことがわかった。

・対面による会議では、会議後の交流時間に、自身が主催するイベントや新たな商品開発への連携の声掛けなど、これまで関わりが無かった団体等とのコミュニケーションが活発に行われ、交流を図る場づくりの重要性を感じた。

# ひらかた万博共創プラットフォームに「足りない」と感じた点

※回答数：50



ひらかた万博共創プラットフォーム登録団体向け「ひらかた万博の総括に関するアンケート」より

- ・プラットフォームに対し足りないと感じる点は「特になし」という回答が最も多く、一定満足いただけただけのものとうかがえる。
- ・その中で、プラットフォームに対し足りない点としては、「参加事業者間の交流機会(会議やオンラインでの繋がり場)」が高く、**参加事業者においても、交流を図る場づくりが求められており、具体的な目的や方向性を持った上で、共創プロジェクトの機会を求める声が多い。**
- ・その他(自由記述)からは、「行動を起こすハードルが下がった」「他団体の取組がわかり、地域連携を進める上で参考になった」などの意見があった。

## 取組紹介等

### 【空飛ぶクルマビジネス共創部会】

- 「空飛ぶクルマ」の社会実装による市民生活の質の向上や新たなビジネスの創出を目指し、令和5年6月に設置（21団体が参画）。
- 観光・産業分野での新たな価値創出や災害時の緊急支援の効率化等のユースケースの検討や効果・可能性の検証、機運醸成のためのイベントを実施。
- 大阪府の「空の移動革命社会実装大阪ラウンドテーブル」にも部会として参画。

### 【ひらかた万博応援自動販売機】

- ダイードリンクからの提案によりひらかた万博オリジナル自販機を設置。
- 募金型自販機として、売上の一部はひらかた万博推進基金に寄附。

### 【盆踊りCGイラスト・アニメ】

- スターダスト河内と大阪工業大学の共創により、大阪・関西万博オフィシャルテーマソングの盆踊り振付けを解説するCGイラストやCGアニメを制作。



▲自販機設置記念式典  
@たまゆら中振本店（2023年6月16日開催）



▲CGイラスト（モーションキャプチャーで動作を解析）

# 👉 関連の取組（東部地域の活性化）

## 【奥ひら実行委員会との共創】

枚方市の東部地域を「奥ひら（奥ひらかた）」と名付け、株式会社和幸、ひらかた独歩ふぁーむ、株式会社カンパイカンパニーが中心となり、地域の活性化を目指す様々な活動を展開。

### <特産品の創出>

東部地域の食材を使用したラーメンやスイーツ、クラフトビール等を開発し、大阪・関西万博などで出展。



### <奥ひらフェス2025>

11月2日（日）野外活動センターにて東部地域の魅力を体感できるイベントを開催。



### <奥ひらツーリズム>

電動自転車で東部地域の自然・歴史スポットを周遊し、地元野菜の収穫体験・フットゴルフなど地域ならではのコンテンツを味わえるツアーを実施。令和7年11月に計6回催行し、募集の80%を超える参加があった。



「ほのちのちいす、おくひらです！」  
秋方市東部（奥ひら）地域  
奥ひら探訪  
デジタル  
スタンプラリー  
2025.11.1 - 12.24

ポイント	1	2	3	4	5
スタンプ	1	2	3	4	5
WESTER	1,000円	2,000円	3,000円	4,000円	5,000円
おみやげ	500円	1,000円	1,500円	2,000円	2,500円
おみやげ	500円	1,000円	1,500円	2,000円	2,500円

また併せて、同地域の魅力スポットを巡るデジタルスタンプラリーも令和7年11月1日～12月24日に実施。（参加者数：500名以上）

## 👉 関連の取組（東部地域の活性化）

### 【古民家を活用した観光施設創出】

#### < 農業体験型複合観光施設『テロワール』 >

穂谷地区の古民家を改修し、令和5年にオープン。地元農家とのつながりのもと、東部地域で採れた野菜を活用した飲食店や農産物の収穫体験、農業スクール等を手掛ける。農業スクールへの参加をきっかけに、同地区に移住し、半農生活を始めたという人も。



## 👉 関連の取組（大阪・関西万博関連）

### 【市内園児が万博体操で世界と交流】

#### < 春日東野幼稚園が万博体操を披露 >

大阪・関西万博に向けて、春日東野幼稚園がスポーツクラブと連携し、誰もが楽しく健康に取り組める運動として「万博体操」を企画・発案。

園児たちが万博会場等で披露し、体操を通してたくさんの国や地域、多様な世代の人たちと触れ合った。

（万博会場出演：令和7年7月13日、21日、26日）

（ひらかた万博PRイベント出演：令和7年10月11日）



## 👉 関連の取組（（PBL）課題解決型学習）

### 【市内学校と企業の共創】 牧野高校「MAKINO EXPO 2025」

地域の特色を生かして学生の視点でまちの活性化や課題解決策を考える学習プログラム「ひらかたクエスト」を2024年から開始、その成果を翌年2025年同校学園祭で披露。

約40のコンテンツを展開し、好評を得た枚方産のすももを使った焼菓子、市の観光案内所Syuku56で販売を継続。

### 【子どもたちに市の魅力を伝えたい】

「ひらかた万博」をテーマに職員が市内の学校へ出向き、市の文化・歴史などの地域資源について紹介。

地域資源を活かしたビジネス創出などについて、子どもたちにアイデア提案を求め、まちの未来について考える機会を作った（枚方中学校、枚方第二中学校、氷室小学校）。



# ひらかた万博共創事業創出補助金

	【R6決算】	【R7決算】
歳出	98万6千円	28万円
特定財源	98万6千円	28万円

補助金額：30万円を上限に、必要経費の2分の1を補助  
計6件の取組を支援（R6：4件、R7：2件）

- ・まるっとひらかたスタンプラリー（秋コース）
- ・～紡ぐスイーツウォーキング・紡ぐシップ～
- ・クマゼミの幼虫のお菓子
- ・枚方産バウムクーヘン
- ・まるっとひらかたスタンプラリー（春コース）
- ・宮之阪百済寺菊音楽祭百済寺跡イベント



・認知度が課題であった特別史跡「百済寺跡」で、盆踊りやコスプレパフォーマンス等のイベントを実施。新たな活用により特別史跡を訪れてもらい、認知度向上を目指した。

- ・創出した特産品はふるさと納税返礼品の登録など、ビジネス創出を進めている。
- ・実施事業者からは「補助金制度を活用することで行政や関係団体と一緒にアイデアを形にすることができた」との声もあり、共創のきっかけづくりとして機能。
- ・一方で、2年間で15件（予算：450万円）の申請を想定していたが実績は6件。
- ・交付要件としての「共創」や「地域資源」の定義付けができず、捉え方が実施事業者ごとに曖昧であったことが件数が伸びなかった要因の一つと考える。



# ひらかた万博パビリオン事業

市の地域資源を活用した様々なイベント・事業を創出し、枚方市全体が、“まるごとパビリオン”となる状態（パビリオン事業が多く実施される状態）を目指すことで、市内外からの誘客とまちへの愛着醸成につなげるもの。

	R4	R5	R6	R7（12月末時点）
パビリオン事業数 （うち行政関連・民間団体等）	14件 （14件・0件）	56件 （21件・35件）	92件 （28件・64件）	83件 （32件・51件）
公式インスタグラム発信数	—	—	46件	109件

- ・ 4年間で累計245件のパビリオン事業を実施。民間150件のほか行政関連として庁内23部署により95件の事業を実施。
- ・ 市域で実施される民間事業者による幅広いジャンルのイベントを把握し、行政が積極的に情報発信等を行うことで、市内外からの誘客につながった。

## 👉 Pick up（行政関連）

### ひらかた菊フェスティバル

地域住民や市内幼稚園、小・中学校等で育てられた菊や菊人形を展示（令和7年10月29日～11月17日）



## 👉 Pick up（民間団体等）

### くらわんかファブリックで菊染め体験

昨年の菊花展で展示した菊で環境にやさしい染料を作り、菊花展で染め物体験のブース出展（令和7年11月3日）



### 健康・医療・福祉フェスティバル

健康測定や相談、展示のほか、救急車乗車体験やこども向けイベント「からだ発見縁日」等を実施（令和7年10月26日）



### 宮之阪百済寺菊音楽祭百済寺跡イベント

特別史跡百済寺跡を会場として、音楽や盆踊り、コスプレなど幅広い層をターゲットに実施（令和7年10月26日）

# 取組紹介等

様々な事業者が「地域資源」をそれぞれの視点で活用

## 【枚方宿】

枚方宿周辺でのイベントを通じて同エリアや市駅周辺へ誘客



## 【天の川】

七夕伝説や七夕ゆかりの天の川を「かわ」と「まち」をつなぐきっかけの一つとして活用



## 【特産品】

枚方産の野菜等を使った特産品の試食や販売により、枚方の魅力発信と東部地域のPR

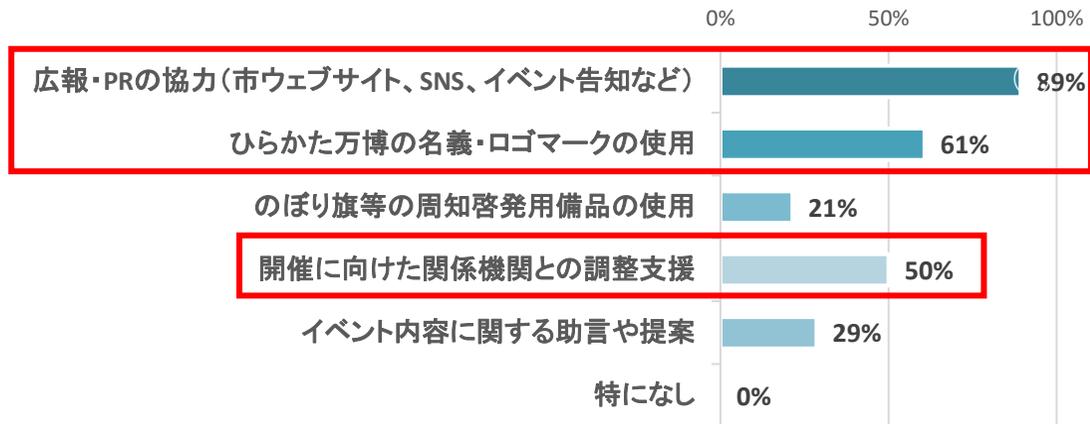


特産品

イベントでPR

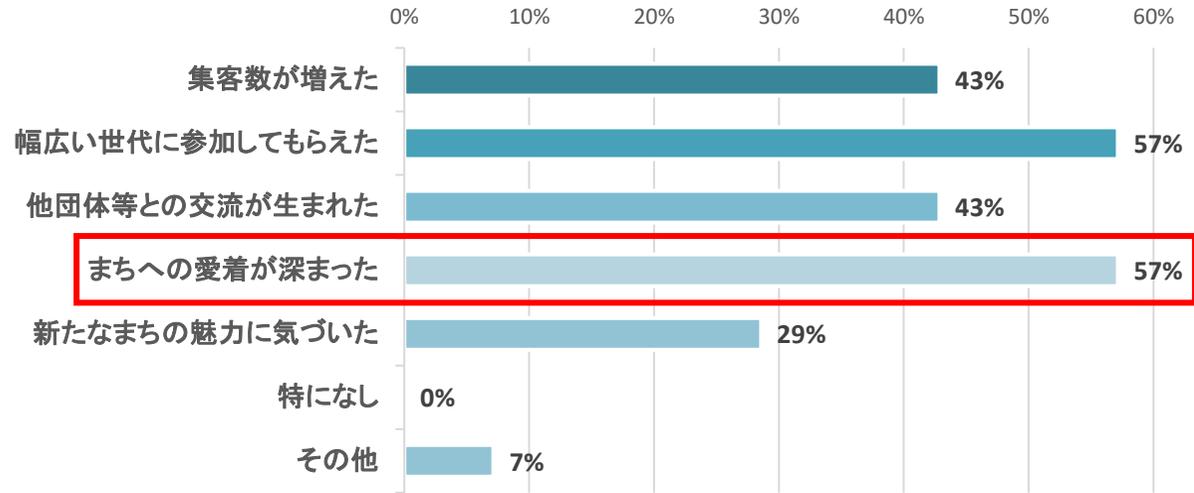
## パビリオン事業における行政からの支援で特に「良かった」と感じた点

- ①広報・PRの協力(市web、SNS、イベント告知等) (89%)
- ②ひらかた万博の名義・ロゴマーク使用(61%)
- ③開催に向けた関係機関との調整支援(50%)



## パビリオン事業として実施した効果

- ①幅広い世代に参加してもらえた(57%)
- ①まちへの愛着が深まった(57%)
- ③集客数が増えた(43%)
- ③他団体等との交流が生まれた(43%)



ひらかた万博共創プラットフォーム登録団体向け「ひらかた万博の総括に関するアンケート」より

・自分たちの取組の広報・PRに対し、行政の協力があったことを良かったとする声が多く、効果としては、幅広い世代に参加してもらえたとの声が多かった。

・パビリオン事業は、地域資源を活用することが要件となっていたことから、市の魅力を再確認する機会となり、まちへの愛着が深まったという意見も多かった。また、集客数が増えたとの回答も多いことから、パビリオン事業により地域の活性化に繋がったと考えられる。

・その他「市の関係者との連携がしやすくなった。」「自社の事業や活動を広く知って頂く機会になった。期間を通して関わった行政職員との関係作りや繋がりをもつことができた。」といった声があった。

# くらわんかツアーリズム

	【R6決算】 1,286万5,600円	【R7決算】 一円
歳出		
特定財源	178万9,000円	一円

※ひらかた万博推進事業経費のみ

大阪観光局及び地域DMOである一般社団法人「くらわんか観光マネジメント」との連携の下、観光関連データを蓄積・可視化するDMPを活用した観光データの分析結果を元に、本市の観光資源の魅力を最大限に引き出すことのできるターゲット層を特定し、ツアー造成などに取り組んだもの。

令和6年度は、ノウハウ蓄積や関係者連携の基盤作りとして、インバウンド向けに4つのツアーと6つのモデルコースを造成したほか、令和7年度にも新規ツアーが造成された。

今後もくらわんか観光マネジメントが中心となってツアー造成・プロモーションに取り組むとともに、市は、観光関連データ調査分析を継続して実施していく。



宿場町と味噌と  
淀川を楽しむ  
サイクリングツアー



自然と絶景に触れる  
国見山ハイキングツアー



採れたて野菜の  
絶品ランチ付きツアー



ローカルでディープな  
夜を楽しむナイトツアー



特別史跡百済寺跡を巡り  
伝統文化体験もできるツアー



モデルコース  
ひらかたおすすめパンめぐり  
など6コース

# ひらかた万博PRイベント

ひらかた万博の取組周知・PRを目的に実施したイベント。

大阪・関西万博でも重要なコンテンツの一つである「盆踊り」を中心に、取組を通じて創出された特産品等の飲食ブースを出展。

## 出展者アンケートより

- ・ 出展者同士の交流ができ、イベントをきっかけに来店者（利用者）が増えた。
- ・ 高校生とのコラボで生まれた商品の販売ができた。
- ・ 盆踊り企画への集客が各店舗の利用にもつながっていた。

	【R5決算】	【R6決算】	【R7決算】
歳出	362万8,565円	1,830万5,380円	1,211万6,200円
特定財源	338万2,025円	1,691万1,000円	551万6,118円



## ◆各年度の実施状況

	R5	R6	R7
イベント名称	ひらかた万博ってなんやねん！？楽し～んかい！	きてね、枚方。	またきてね、枚方。
来場者数	500名	6,000名	5,000名（うち海外：約100名）
場所	枚方市総合文化芸術センター	淀川河川公園枚方地区	ニッペパーク岡東中央周辺

## 👉 関連の取組

### 【盆踊り 交野節の魅力発信】

盆踊りは、大阪・関西万博においても中核コンテンツとして位置付けられ、「交流盆踊り」など複数の企画が催された。本市も地域団体と連携し出演。

スターダスト河内や八尾本場河内音頭連盟、DJ Celly など多様な出演者のコラボにより世代や国籍を問わず誰でも楽しめる体験コンテンツとして実施することで、市の地域資源である「交野節」を広く周知・PRした。



### 「またきてね、枚方。」への外国人誘客に向けPR

関西外国語大学（PBL）と連携し、留学生向けひらかた万博イベント誘客キャンペーンを9月に2度実施。

また、9月20日の大阪観光局主催「外国人留学生エキスポ2025」でもチラシを配布。

当日は多くの外国人が訪れ、様々な国籍の方々とコミュニケーションを図り、枚方・イベントのPRを行った。

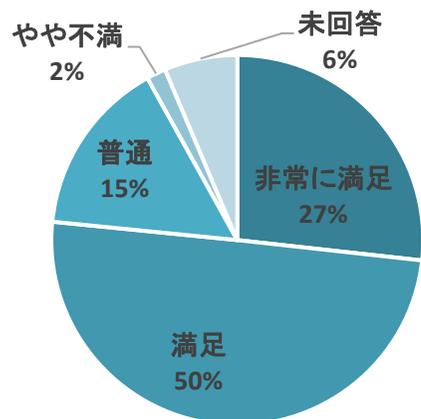


▲令和7年10月に開催したイベントでは、DJ Cellyによる新しい形の盆踊り「盆ジョヴィ」とコラボ。幅広い世代が盛り上がり、公園がライブ会場のように。

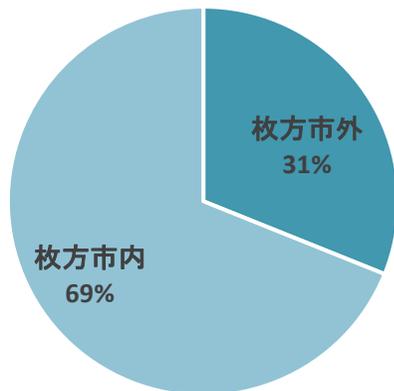
# イベント参加者アンケート結果(抜粋)

## イベント満足度

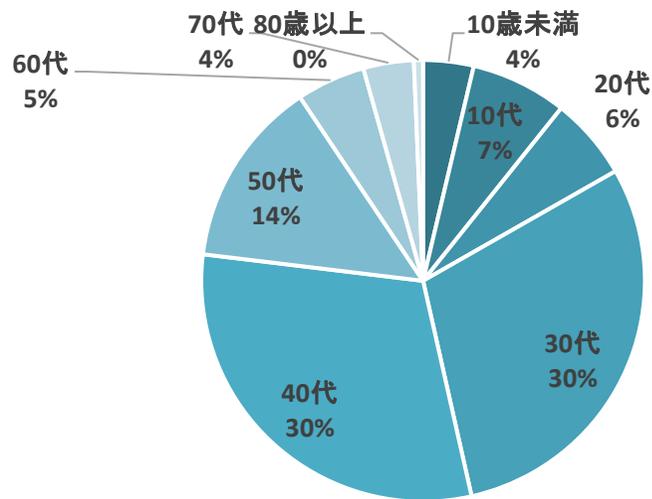
【R6】 来場者 約6,000人



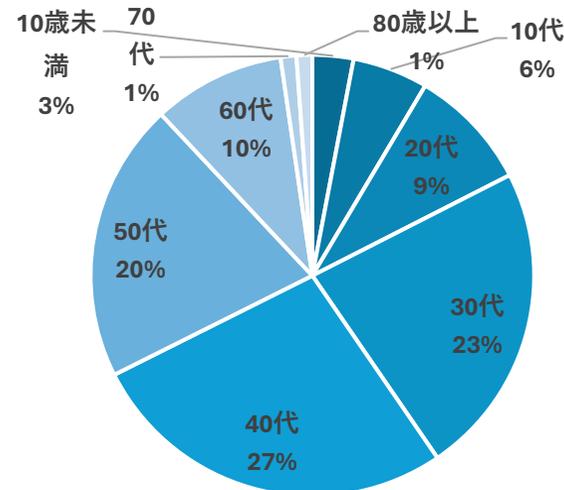
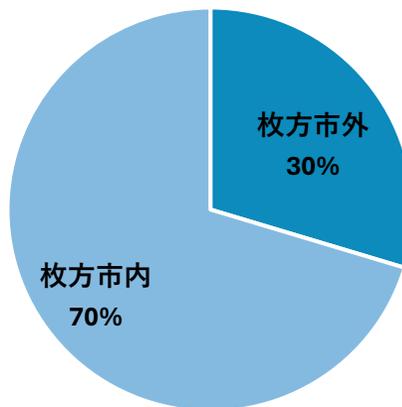
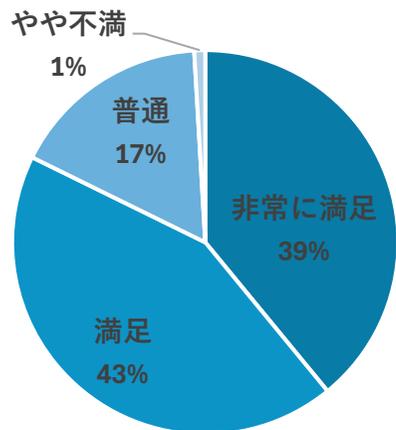
## 居住地



## 年代



【R7】 来場者 約5,000人

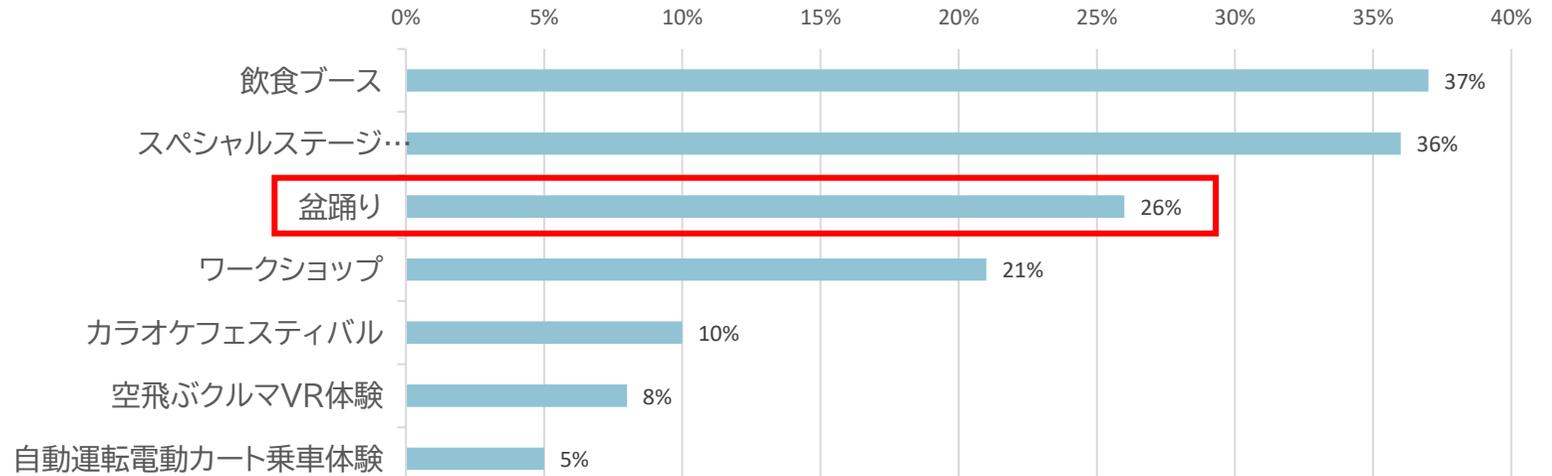


- ・ イベント満足度は2年とも「非常に満足」「満足」と回答した人が約8割。
- ・ 居住地は2年とも3割程度が市外からであり、イベントを通して枚方市への誘客にもつながった。
- ・ 年代に関しては、40代までが約7割と多く、幅広い世代に参加してもらうことができた。

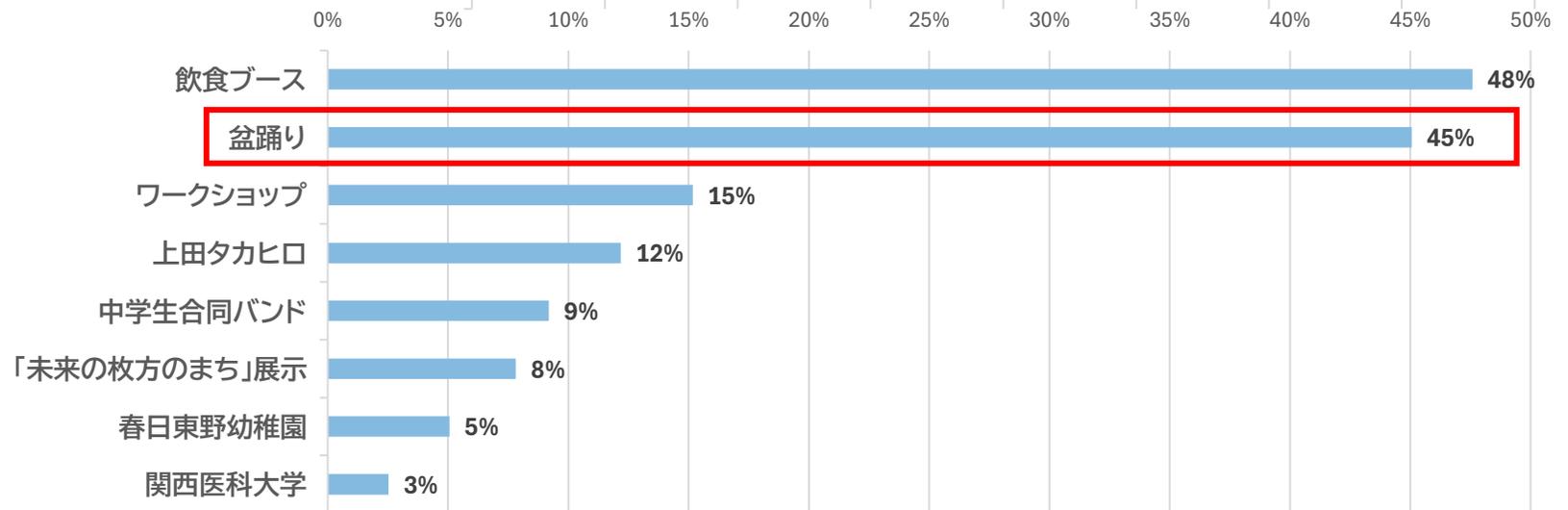
# イベント参加者アンケート結果(抜粋)

## 来場目的

【R6】



【R7】



・来場目的に関しては、2年連続で「飲食ブース」が最多となった。「盆踊り」を目的とした人はR6からR7に向けて19%上昇しており、大阪・関西万博と連動し盆踊りコンテンツを継続することで、機運が醸成されたことが要因と考えられる。

# 大阪・関西万博への出展

	【R6決算】	【R7決算】
歳出	1,217万円	1,749万3,140円
特定財源	23万2,000円	348万6,140円

府内43市町村が連携・協力して大阪の魅力を発信する催事「大阪ウィーク」や、万博首長連合が主催し会員自治体が都道府県の枠を越えて共創する催事「LOCAL JAPAN展」に出展。

「ひらかた万博」の取組を通じて生まれた特産品などを出展し、枚方の魅力を伝えることで、来訪者の増加につなげる。

また、子どもたちに学びの機会を創出するとともに、まちへの愛着醸成を図る。



## ◆各出展の概要・成果

### <5/18> ギャラリーWEST 「関西医科大学が取り組む人にやさしい近未来の医療」

最先端のがん治療である光免疫療法などの研究紹介や展示、子ども向けの医療体験セミナーを実施。

(来場者数：約500人)



### <7/27> EXPOアリーナ 「Matsuri」 「交流盆踊り」

河内音頭の源流で、大阪府無形民俗文化財（記録選択）の「交野節」や、交野節の歌と踊りを現代風アレンジした「#万博音頭 交野節編」を披露。

(来場者数：約6万4,000人  
※4日間延べ)



<7/29-30、9/13-15> EXPOメッセ「WASSE」  
枚方もづくり企業発！産学公連携の“できない”  
を楽しむ！～不器用FACTORY～

やりなはれゾーンに出展し、共創  
体験型ワークショップ「へそバラ  
ンサー」や「コラボマスターズ」  
体験を実施。参加者には「へそス  
ピナー」と「関西のへそカード  
セット」を配布し、本市への来訪  
を誘導。

(来場者数：約**2,700**人)



<7/29-30> EXPOメッセ「WASSE」  
枚方宿のくらかわんか食文化でおもてなし

たべなはれゾーンに出展し、枚  
方凍氷×多田製茶×北村みそ本  
家による「抹茶味噌餡かき氷」  
など、枚方宿の名物のコラボで  
生まれたスイーツを販売。

(販売件数：約**520**件、  
売上：約**44**万円)



<7/28-31> EXPOメッセ「WASSE」  
古き良き、江戸時代へタイムスリップ

神奈川県箱根町、静岡県三島市、  
大阪府和泉市と合同で、江戸時  
代を体感できるブースを出展。  
本市は淀川舟運や枚方宿等のPR  
としてくらかわんか舟の模型展示  
や菊人形を置いたフォトスポッ  
トを設置。

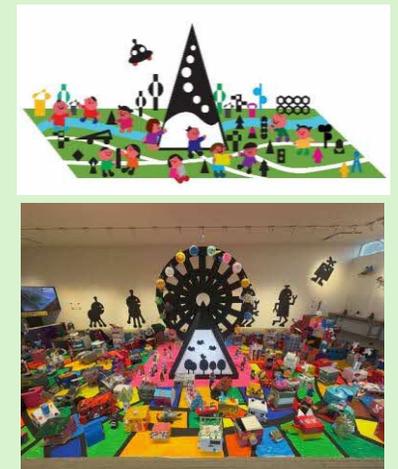
(来場者数：約**4万6,000**人  
※4日間延べ)



<8/3> ギャラリーWEST  
「みんなで創ろう！この街の未来」プロジェクト

市内の子どもたちが、市PR  
大使で絵本・切り絵作家の  
たけうちひろさんと一緒に  
市内企業等から提供され  
た廃材などを活用し制作し  
た「未来の枚方のまち」を  
展示。万博後は市内公共・  
商業施設で展示。

(来場者数：約**1,700**人)



<9/5> EXPOアリーナ「Matsuri」  
「この街が好き」  
～吹奏楽と歌でつなげる 枚方家族の輪～

公募で集まった市立中学校の生徒60人が合同バンドを結成し、市テーマソング「この街が好き」や、市出身・在住の作曲家・酒井格さんが作曲した「たなばた」など枚方にまつわる楽曲を披露。

(来場者数：約1万3,000人)



<9/14-15> EXPOメッセ「WASSE」  
里山・都市農業を守る地産地消の提案

たべなはれゾーンに出展し、奥ひら実行委員会と牧野愛する商店会等のコラボによる、地産地消をテーマに開発した新たな特産品を販売。

(販売件数：約2,000件、  
売上：約120万円)



<9/15> EXPOメッセ「WASSE」  
枚方市のPBL（楠葉西型）を世界に

楠葉西中学校が課題解決型学習（PBL）で福祉・防災・職業について考え、学んだ成果を発表。自分たちの視点で捉えた課題やアイデアを国や地域を越えて発信。

(来場者数：約1万8,000人)



「みんなで選ぶ共創パートナー賞」  
自治体で唯一 受賞

日本国際博覧会協会の取組「TEAM EXPO 2025」プログラムのアワード企画「みんなで選ぶ！TEAM EXPO」で受賞。

合わせて計9つの賞に13団体が約2万件の投票で選出。



## ◆出展事業者や出演者の感想等



### 【やりなはれ出展事業者】

・市内ものづくり企業の紹介だけでなく、新しい視点で市をPRできないか企業同士で知恵を出し合い、枚方のアクセスの良さや住みやすさを楽しくアピールできた。今後は企業同士の取組をさらに進め、枚方でおもしろい商品をつくっていききたい。

・来場者に配布した枚方カードは、大学生や留学生、市内企業等の声を反映し制作。枚方に住んでいると”当たり前”と感じるモノやコトも、外から見ると”他にはない魅力”として、「だから、枚方」につながっていくと感じた。

### 【たべなはれ出展事業者】

・枚方には、素晴らしい野菜がある。万博を通じて集まった他事業者とのチームによる共創で、枚方らしい特産を生み出し多くの方に届けられて嬉しかった。

・万博で終わらせず、これから流通させていくことが重要。農家だけでなく、加工・販売する事業者と一体で進め、農業の価値を高める仕組みをつくっていききたい。

### 【交流盆踊り出展団体】

・今後も交野節と盆踊りを次世代へ継承しつつ、「新しくて懐かしい枚方の名物」として市内外へアピールしていききたい。

### 【吹奏楽出演者】

・公募で集まったバンドは初対面のメンバーも多く、本番まで限られた期間だったが、ミスした際にも助け合える良いチームになれた。枚方ゆかりの楽曲で市の魅力を多くの方々の心に届けられて嬉しかった。

### 【LOCAL JAPAN展出展団体】

・「枚方といえばくわんか」と菊人形と思ってもらえるよう今後もPRを続けたい。



# 万博を契機とした海外との交流

## 【ポルトガル・パキスタンからの寄贈】

ポルトガルからパビリオンの装飾で使用されていたロープ、パキスタンから展示物の岩塩の寄贈をそれぞれ受ける。

多くの人に見てもらえるよう生涯学習交流センターや民間商業施設で展示し、展示期間後はアップサイクル品を制作するワークショップ等で活用を予定。



▲生涯学習交流センターでの展示

▲ポルトガルパビリオン館長（写真上）からはロープ10本、パキスタンパビリオン館長（同下）からは岩塩3個（計約30kg）を受領。

## 【万博のピンクソルトを交流の架け橋に】

令和8年1月13日、市立菅原小学校でパキスタンの岩塩を活用した出前授業を実施。パキスタンとオンライン中継を結び、現地にいる講師から同国の地理や歴史、文化などをクイズ形式で楽しく学んだ。

同校にはパキスタンからの転校生がいたことから実現。授業を終えた子どもたちからは「パキスタンのことがたくさんわかって楽しかった」「パキスタンに行きたくなった」との声が聞かれ、万博の岩塩を交流の架け橋として、言葉の壁や文化・習慣の違いを超えて友好を深め、多文化共生や国際意識の醸成につながった。



## 【インドネシア共和国】

経済や医療、健康等の幅広い分野における連携・交流促進に向け、インドネシア共和国政府との意見交換等を実施。地域産業の活発化や国際交流の活性化につなげる機会と捉え、市内大学や企業とのマッチングを図る。

### ◆令和6年11月7日 在大阪インドネシア共和国総領事館

在大阪インドネシア共和国総領事館 総領事らが来訪。学術・産業分野での交流促進に向け市内大学・企業との意見交換等を行うとともに、研究施設や製造現場を視察。

### ◆令和6年12月20日 インドネシア共和国 国家開発計画省

インドネシア 国家開発計画省の計画・組織・運営局長らが来庁。大阪・関西万博を契機としたビジネスマッチングや文化交流、若者の人材交流等について意見交換後、鍵屋資料館・ひらかたパークを視察。鍵屋資料館では学芸員による館内説明のほか、茶道体験会、ひらかたパークでは園内施設の見学等を実施。

### ◆令和7年 大阪・関西万博開幕以降

インドネシア政府主催のビジネスフォーラムやセミナー等に参加し、市内大学や企業などを含めた連携のあり方について総領事館との意見交換を継続的に行っている。

7月には関西医科大学とインドネシアの大学との間で国際学術交流協定が締結されたほか、東ジャワ州マラン県にある総合病院との連携に向け、市と総領事館との間で調整を行うなど、継続的な交流に取り組んでいる。



## 【オーストラリア クイーンズランド州】

本市と友好都市提携を結んで30周年を迎えるローガン市が同州にあることをきっかけに、4月14日に州政府 貿易投資庁会長が訪問。ローガン市との交流や企業とのマッチング、大学の技術交流について意見を交わす。



### ◆令和7年9月19日 ローガン市とのビジネスミーティング

ローガン市ジョン・レイブン市長の枚方市訪問にあわせ、市内企業8社と同市の経済担当者とのビジネスミーティングや、企業団地の製造拠点を視察する企業団地ツアーを実施し、両市の産業・企業交流の今後の展開に向けて意見交換。サステナブル素材やデザイン、食品加工技術、3D技術、教育・人材交流など多様な分野での連携可能性を確認。



### ◆令和7年12月4日 クイーンズランド州とのビジネスミーティング

市内企業6社とクイーンズランド州駐日事務所の貿易担当との個別ミーティングを実施し、枚方からの投資や事業連携に向けて商談。



### ◆令和7年12月9日 クイーンズランド州とのビジネスミーティング

市内でスーパーマーケットを展開する企業とクイーンズランド州駐日事務所の貿易担当とのビジネスミーティングを実施。オーストラリア産フルーツの試食会も実施し、今後の販売展開の可能性について協議。今後、各店舗での販売展開に向けて前向きに検討。毎年3月に東京で開催される国際食品・飲料展「FOODEX JAPAN」で改めて商談の機会を設ける予定。



# 取組に係る情報発信

市内外で実施されるイベントへのブース出展やSNSを効果的に活用した情報発信等により、国内外からの誘客に向け周知・PR。

	R6	R7
イベントへの出展等	23回	30回

## 【ひらかた万博公式Instagram】

令和6年8月から運用開始。令和7年4月に1000、開設後約1年で約**5,000**のフォロワーを獲得。



## 【民間事業者等との連携】

### <JR西日本>

令和7年6月と8月、大阪駅でのPRイベントにひらかた万博のブースを出展。また、WESTビジョン（列車内広告）や大阪駅ディスプレイ、駅ポスターでの市PRも実施。

### <市内事業者によるPR協力>

株式会社サンエースの建物壁面にキャッチコピーのライトアップを協力いただいたほか、ゆうき内科・スポーツ内科の協力で枚方ビオルネの壁面に垂れ幕を掲示。枚方信用金庫は万博応援定期の創設や社員名刺にロゴマークを掲出。



## 【庁内連携によるPR】

各課によるイベントのブース出展時などに、横断的な連携によりひらかた万博をPR。

また、市民への発送用封筒・冊子等さまざまな媒体にひらかた万博のロゴマークなどを掲載し、周知・機運醸成につなげた。



## 【パビリオン事業の発信強化】

パビリオン事業を「子ども・子育て」「ナイトライフ」「文化・芸術」「平和・未来」のカテゴリーに分け、パッケージ化により情報発信を強化。

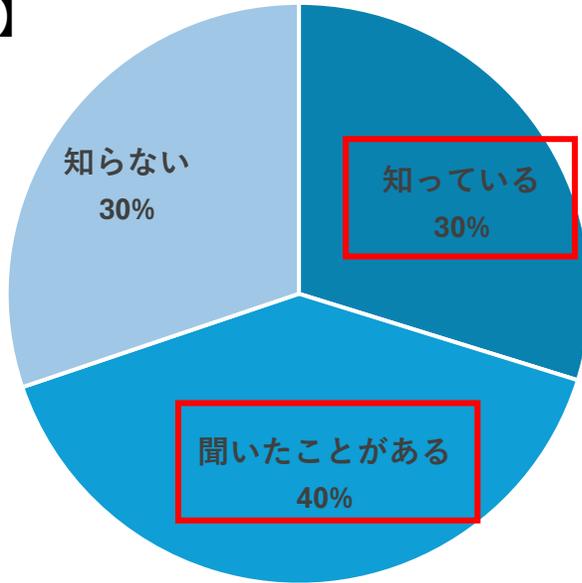


# アンケート結果(抜粋)

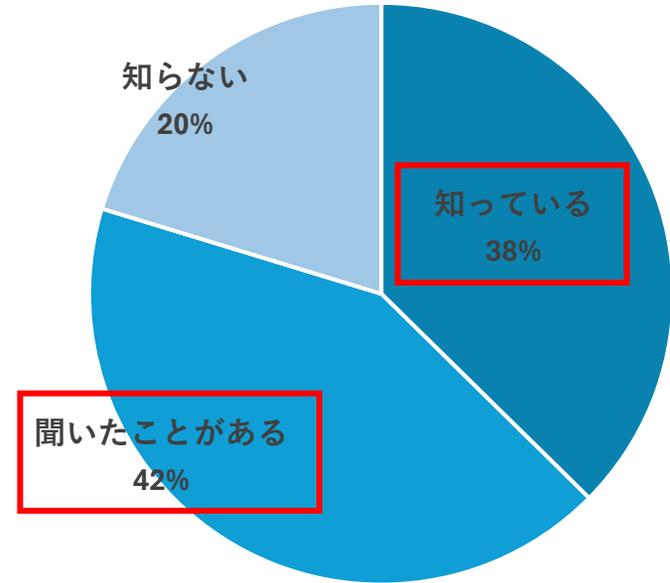
インターネットアンケートより  
令和6年9月、令和7年10月に実施  
回答者：R6 2,248人、R7 1,460人

## ひらかた万博の認知度

【R6】



【R7】



- ・スマホアンケートにおける「ひらかた万博をご存知ですか」の問いに対し、「知っている」もしくは「聞いたことがある」が令和6年度から7割から令和7年度は8割に上昇し、市民における一定の認知は得られたが、関心を醸成するに至るにはPR等に課題が残ったと考える。
- ・大阪・関西万博への出展をはじめ、SNS、市内外へのブース出展など、市外に向けた発信に重点を置いたこと等も要因の一つと考えられるが、一方で、インスタグラムにおいては、開設1年半以内で約5,000のフォロワーを獲得するなど、今後も継続的に本市の魅力を発信するターゲットを得ることができたと考える。

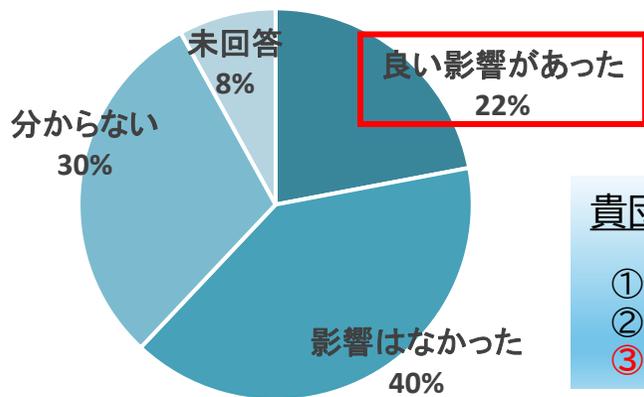
# 取組の総合的な評価

## ①地域経済の活性化について

◆多様な主体の対話により、地域資源を活かした特産品や体験コンテンツが創出された。

◆プラットフォーム参画団体からは「行動を起こすハードルが下がった」等の声があり、新たなビジネスの機会創出につながられた。

◆複数の万博参加国との交流が生まれ、万博を契機とした公民・民民の多様な交流につながられた。



●取組を通じて生まれた特産品については引き続き主体的に関わり、ふるさと納税の返礼品化等、継続的な販売や新たな取組への発展につなげる。

●関係団体からは、今後も行政や他企業との連携を望む声が多くあり、地域が連携して取り組む環境や仕組みを引き続き整えることが求められる。

●海外との交流については、北大阪商工会議所や市内5大学等との連携のもと、新たな交流・ビジネスマッチングの機会づくりや、経済・学術分野等での具体的な事業連携に向けた調整を進める。

### 貴団体(貴社)事業の売上増など、経済的な影響

- ①影響はなかった(40%)
- ②分からない(30%)
- ③良い影響があった(22%)

ひらかた万博共創プラットフォーム団体向け「ひらかた万博の総括に関するアンケート」より

◆盆踊りを誘客コンテンツに活用したPRイベントでは市外からの来場者が約3割を占め満足度も高く、地域資源としての魅力を高められた。

◆国内外からの誘客や産業全体の活性化といった経済効果については、ひらかた万博としての数値的な成果を把握することは困難であった。



●ひらかた万博の共創や大阪・関西万博への出展等を経て磨き上げられた魅力コンテンツについては、引き続き共創を原動力として価値をさらに高め、効果的な活用につなげる。

●ひらかた万博の取組に係る効果は直ちに表れるものではないため、新たに生まれた魅力や共創の機運は、まちの持続的な活性化につなげていく仕組みとして継続していく。

## 👉 関連の取組

### 万博出展と連動した市内への誘客

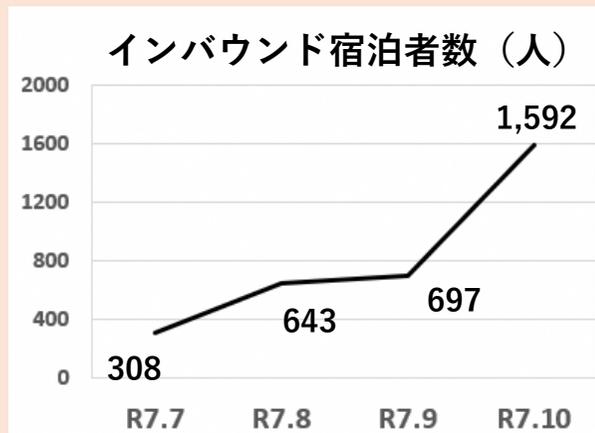
大阪ウィーク「やりなはれブース（不器用ファクトリー）」を体験された人にオリジナルの「枚方カード」を配布。全4種のうち1種はSyuku56の来場者特典とすることで、市内に来訪するきっかけを創出。計70人が来訪（令和7年8～12月）された。



## (参考) 大阪・関西万博期間における波及効果 【訪日外国人宿泊者の状況】

### カンデオホテルズ大阪枚方のインバウンド客が増加

万博開幕に合わせてインバウンド宿泊が増加し、宿泊者全体の10%を超える状況に。閉幕後も同様に推移しており、宿泊先としての枚方の認知が海外でも進んだことがうかがえる。



※カンデオホテルズ大阪枚方 提供

## ②まちへの愛着向上について

◆プラットフォーム参画団体からは、地域に貢献できたという声が多くあり、ひらかた万博への参画を通じて、地域に改めて目を向けるきっかけを創出できた。

◆パビリオン事業の実施を通じ、民間団体ならではの多様な取組を可視化することで、新たなまちの魅力の発信につながられた。

◆PBL（課題解決型学習）では、子どもたちが地域の課題をテーマに扱うなど、まちづくりをジブンゴトとして考え行動を起こす土壌を育むことができた。

◆市の花「菊」や特別史跡 百済寺跡など、まちへの愛着醸成につながる潜在的な価値を掘り起こすことができた。



●地域の資源や課題に着目した多様な団体による主体的な活動を今後も促進するとともに、その活動を市内外に向け積極的に発信することで、さらなるまちへの愛着醸成と市外の新たなファン獲得につなげる。

●「交野節」や東部地域の豊かな自然など、地域ならではの文化や魅力については、市民の愛着醸成の観点からも積極的な活用・PRに取り組む。

### 万博に関わった子どもたちの声

#### PBLの成果を万博会場で発表（楠葉西中学校）



『学習で得た「相手の立場を体験することで求めていることが分かる」や「防災には日常からの備えが大事」等の気づきを生かして大人の力も借りながら地球課題の解決に取り組みたい』



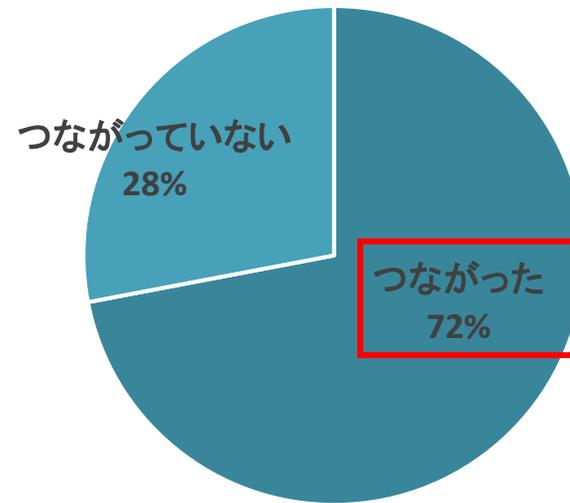
#### 「MAKINO EXPO」でクラウドファンディングに挑戦（牧野高校）

『気球を飛ばすための資金を高校のOBや地域のいろんな人たちに協力してもらえました。気球が飛んだ時、やってきたかいがあったと心から思いました。枚方が人と人とのつながりが強い街だと伝えればうれしいです』

# アンケート結果(抜粋)

## まちの愛着向上につながったか

- ①つながった(72%)
- ②つながっていない(28%)



ひらかた万博共創プラットフォーム登録団体向け「ひらかた万博の総括に関するアンケート」より

- ・ 具体的な意見としては「市職員や企業の皆さんの熱量を感じ、ここまで地域のことを考えて組織として取り組まれている自治体は、なかなか無いのではと感じました。」「地域に根ざした活動を通じて、地元の人と多く触れ合えた」「事業所さんとのつながりは枚方の地場商業の歴史や人のつながりを多く知ることができ、今後の商品開発のヒントになった。」という声があった。
- ・ 取組を通じて、地域資源の魅力を再確認するなど、まちの魅力に気づき、まちへの愛着向上につながったものと考えられる。

## 【大阪ウィーク（やりなはれブース） 出展事業者の声】

『枚方に住んでいると”当たり前”と感じるモノやコトも、外から見ると”他にはない魅力”として見えることを学び、枚方の魅力を再発見できた。これからも様々な機会発信していきたい。』



▲写真左からクラスター研究会・芦田会長、竹村副会長、佐原氏

# 取組の総合的な評価

## ③大阪・関西万博の機運醸成について

◆大阪・関西万博への出展・出演を目指して子どもたちが主体的に活動できる機会を創出し、万博への関心を高めるとともに多様な学びの機会を提供できた。

◆日本国際博覧会協会が主催する「TEAM EXPO 2025」プログラムの共創パートナーに登録し、地元団体等の共創チャレンジを支援することで、地域の主体的な活動を促進。万博をきっかけとした地域活性化の取組として、同プログラムのアワード企画「みんなで選ぶ！TEAM EXPO」での「共創パートナー賞」受賞につながった。



●万博を通じて広がった、地元企業や団体、大学・学校など多様な主体との交流や連携の実績を活かし、地域の課題解決やまちの活性化に共に取り組むための対話の環境整備を進める。

### 👉 関連の取組

#### 2つの万博を追体験する「コシノジュンコ展」

10月2日～6日、総合文化芸術センターで「コシノジュンコの万博デザイン展」を民間企業との連携で開催。

1970年の大阪万博や大阪・関西万博で同氏が手掛けたユニフォーム等の展示を通じて、それぞれの時代を体感するとともに万博の意義や市の魅力を発信した。



# 今後の方向性と具体的な取組

## ◆「共創」のさらなる活性化

ひらかた万博の取組を通じて、異分野・異業種間等の多様な共創が生まれたことは、新たな角度から地域資源を見つめ直すことで新たな価値を生み出すとともに、地域の課題に多様な主体が向き合う土壌を育む。

こうした共創の機運をひらかた万博のレガシーと捉え、市の様々な社会課題の解決と地域の持続的な発展に生かしていくため、「枚方市公民連携プラットフォーム」に共創の視点を加え対話することで、まちをつくる主体とともに未来の枚方を考え、それぞれが主体的な取組を進める土壌を構築していく。

### 共創の主体

より多くの主体の参画

- 民間企業
- ×
- 学校・大学
- ×
- 地元事業者
- ×
- 地域団体
- ×
- 行政機関

×

### 共創の材料

より幅広いテーマと手法

- 社会課題
- ×
- 地域資源
- ×
- 新たな技術・サービス
- ×
- 活動・実証実験フィールド
- ×
- 多様な財源

⇒

### 生み出す価値

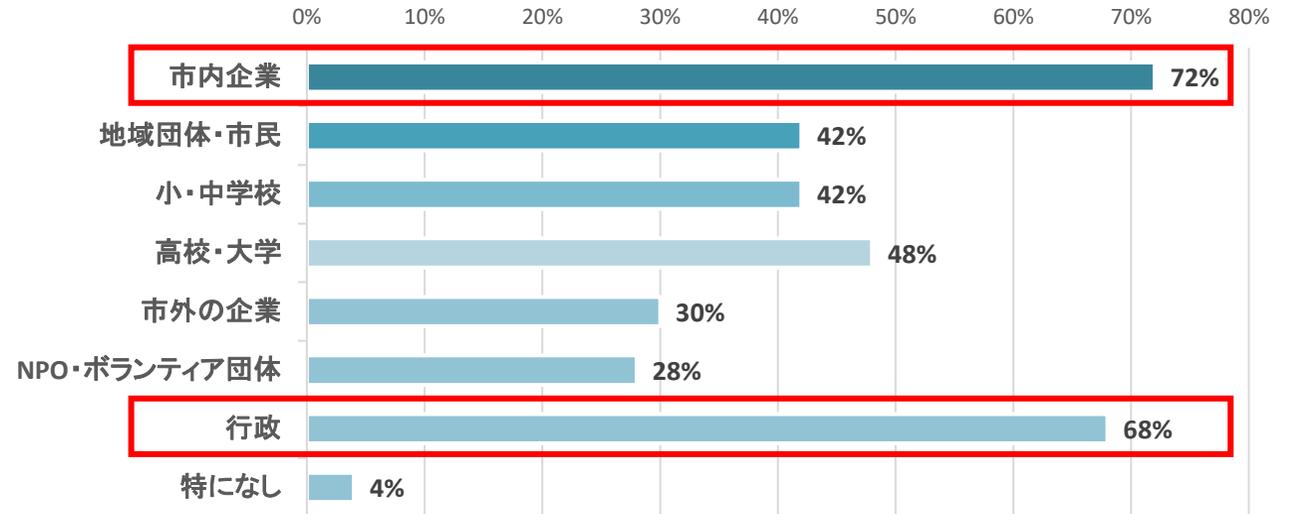
課題解決

- まちづくりの担い手  
(活動人口・関係人口)
- イノベーション
- 新たなまちの魅力
- 暮らしの満足度向上

# アンケート結果(抜粋)

## 共創の取り組みにおいて 今後連携したい団体

- ①市内企業(72%)
- ②行政(68%)
- ③高校・大学(48%)



## ひらかた万博として、特に「レガシー(遺産)」として残すべきもの(主な意見)

- ・枚方ならではの地域ブランド
- ・多様な人材、団体のネットワーク/コミュニティ
- ・まちへの愛着向上のための取り組み

ひらかた万博共創プラットフォーム団体向け「ひらかた万博の総括に関するアンケート」より

## ◆ 「共創」で引き続き取り組む「万博レガシー」

### 万博で高まった「盆踊り」の 魅力磨き上げと地域への浸透

大阪府の無形民俗文化財（記録選択）にも選択された交野節をはじめとした「盆踊り」は、ひらかた万博での活用や大阪・関西万博への出展等を通じ、国内外を問わず幅広い層や世代が楽しめる体験コンテンツとしての認知を高められた。

今後は、多様な主体が取り組む共創テーマの一つとして、市内外での幅広い活用を支援するとともに、枚方市ならではの地域資源として地域への浸透を図ることで、まちへの愛着を醸成する。



### 万博で生まれたキャッチコピー「関西のへそ」 を共創のちからでプロモーションに活用

万博へのやりなはれ出展事業者の発案で生まれた”関西のへそ”は、枚方市が関西の地理的中心に位置し、交通の利便性が高いこと等を伝えるキャッチコピー。



市民には快適に暮らせる環境を、市外には住みやすく仕事や生活の拠点に選びやすいまちであることをPRするコピーとして、出展事業者との共創のもとで引き続き活用。

体験型ゲームの「へそバランサー※」を使ったワークショップなど民間主導型の移住・定住プロモーションを実践していく。

※関西地図を模したアクリルパネルの上に大阪城など名所のオブジェを乗せ、「関西のへそ」に見立てた枚方市を支点（へそ）にバランスをとるゲーム。パネルはアップサイクル素材で制作。

# 取組にかかる指標と実績

## ◆第3期実行計画

施策名称	観光施策の推進	
総合計画体系	基本目標等	4.地域資源を生かし、人々が集い活力がみなぎるまち
	施策目標等	19.地域資源を生かし、人々の交流が盛んなまち
めざす姿（主観的満足度）	市の観光資源が生かされ、人々の交流が盛んに行われている	
概要	観光資源の効果的な発信、地域内外の交流機会の創出を図る。	
具体的な取り組み	1 2. 地域資源を活かした観光コンテンツの創出及びツーリズム化	
	1 4. ひらかた万博共創プラットフォームによる共創の促進	
	1 5. 地域資源を活かしたパビリオン事業の実施	
	1 6. 「空飛ぶクルマ」の発着場整備	
	1 8. 大阪・関西万博における自治体参加催事出展	

指標名	指標の説明		R6	R7	R8	R9
東部地域の古民家を 活用した観光施設の数	東部地域の古民家を活用した民間宿 泊施設等の観光施設の数（延べ）	目標	1	2	3	4
		実績	1	—	—	—
創出観光コンテンツ数	創出した特産品、参加・体験などの 観光コンテンツの数（延べ） ※うち（）内は東部地域の数	目標	5 (2)	20 (11)	23 (14)	26 (17)
		実績	17 (8)	—	—	—
本市への訪日外国人旅 行者数	大阪府に来た訪日外国人旅行者のう ち、本市を訪問した推計人数	目標	35,000	45,000	56,000	68,000
		実績	29,300	—	—	—
共創により生まれた 特産品の数	共創により新たに創出された特産品 の延べ個数	目標	3	5	7	9
		実績	4	—	—	—
誘客につながる参加 体験イベント数	ひらかた万博の取組において地域資 源を活かして開催された参加・体験 イベント等の数	目標	55	60	—	—
		実績	92	—	—	—
空飛ぶクルマビジネス 共創部会の事業数	空飛ぶクルマビジネス共創部会（効 果検証、可能性検証、社会受容性向 上グループ）で取り組む事業数（延 べ）	目標	3	6	7	8
		実績	5	—	—	—

# ◆事務事業実績測定調書

<b>事務事業事業名称</b>	<b>東部地域活性化事務</b>
事業の目的 ・ 目指すべき状態 ・ 課題が解決した状態	緑や豊かな自然環境をはじめとした東部地域にある資源を活用・整備して新たなコンテンツが導入され、他地域からの来訪者が増えるとともに、良好な居住環境を保ちつつ魅力がより一層向上し、居住者・来訪者ともに快適な空間が創出される状態。
<b>事業の概要</b>	「枚方市東部地域の活性化に向けて」（令和4年3月策定）に沿った東部地域活性化の取組を進めるため、地域との窓口としての連絡調整や、民間事業者/大学等との連携、取組の具体化に関する庁内調整を行う。

<b>具体的な活動</b>
各主体と地域活性化について検討した案件数
<b>令和6年度実績 17件</b>

<b>活動が生み出した結果</b>				
各主体と連携した地域活性化に資する取り組みが実施される。				
指標	「東部地域活性化の考え方」に基づき、市が実施または連携する取り組みの件数			
	R6	R7	R8	R9
目標	10	12	14	16
実績	15	—	—	—

<b>結果による変化・便益</b>				
人々の交流が盛んになり、地域が活性化される。				
指標	市の観光資源が活かされ、人々の交流が盛んに行われていると感じている市民の割合（市民意識調査）			
	R6	R7	R8	R9
目標	18	19	20	21
実績	18.9	—	—	—

<b>事務事業事業名称</b>	<b>大阪・関西万博関係事務</b>
事業の目的 ・ 目指すべき状態 ・ 課題が解決した状態	大阪・関西万博を契機として、枚方のまちの魅力を発信し国内外から本市への誘客を図ることで、地域経済の活性化やまちへの愛着が醸成している状態。

<b>具体的な活動</b>
①ひらかた万博パビリオン事業の実施件数 <b>令和6年度実績</b> <b>95件</b>
②ひらかた万博共創事業創出補助金の公募期間 <b>令和6年度実績</b> <b>12月</b>

<b>活動が生み出した結果</b>				
創出した特産品、参加・体験などの観光コンテンツの数（延べ）				
指標	共創により生まれた特産品・イベントの数（延べ）			
	R6	R7	R8	R9
目標	5	8	—	—
実績	7	—	—	—
ひらかた万博共創事業創出補助金を交付する。				
指標	ひらかた万博共創事業創出補助金の交付決定数(延べ)			
	R6	R7	R8	R9
目標	10	15	—	—
実績	5	—	—	—

<b>結果による変化・便益</b>				
人々の交流促進による地域の活性化。				
指標	市の観光資源が活かされ、人々の交流が盛んに行われていると感じている市民の割合（市民意識調査）			
	R6	R7	R8	R9
目標	18	19	20	21
実績	18.9	—	—	—